

待ち時間最短化による作業計画の一手法

——理論の展開と救命艇降下作業への適用——

金湖富士夫

救命作業をはじめ何らかの作業を遂行する場合、可能な限り短時間で完了することが重要である。作業を遂行する際には、作業の構成上、ある時間作業に携われない人数が生じ、このことが作業の所要時間を長くする主因である。本報告は、そのような待ち時間を最短化して、最短時間で作業を完了する作業計画を求める手法と理論を紹介し、それを救命艇降下作業に適用した結果を併せて報告したものである。

資料の紹介

ITTC Foil-Headform Combination による

キャビテーション初生試験

門井弘行・黒部雄三

吉田三雄・牧野雅彦

キャビテーション現象は周囲の環境に影響される度合いが大きく、キャビテーション試験水槽の形式、仕様、供試体の寸法等の機械量の他に、水槽水の水质、気泡核の分布、水温、流速等の物理量も影響の因子と考えられます。したがって環境の異なる試験水槽間で同じ供試体を使用して試験を行い、その試験結果を比較、検討することは大変に有意義なことであります。

国際試験水槽会議においても従来より軸対称物体や模型プロペラを使用して比較試験を行ってきましたが、今回は1つの foil-headform combination を各国試験水槽間を持ちまわりしてキャビテーション初生試験を実施してきました。船舶技術研究所もこの比較試験計画に協力し、大型キャビテーション試験水槽において foil-headform combination によるキャビテーション初生試験を行い、各国試験水槽における試験結果と比較、検討するとともに、大型キャビテーション試験水槽のキャビテーション特性を調査しました。

運輸省船舶技術研究所 研究調整官

(この論文紹介は昭和53年9月号より続けられております。)